

東京都新宿区北新宿1-8-16  
東京土建一般労働組合  
電話03 (5332) 3971 (代表)  
FAX03 (5332) 3972  
発行人・編集人  
三木 勉

印刷部数11万3400部  
(購読料は組合費のなかに含まれています)  
年間購読料 千八百円  
定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

「消費税の税率5%に戻せ」署名  
10月の消費税増税直後の日用品や食料品の売上高の減少が、8%に増税された時ほどではないと、西村経済再生相は述べましたが、中小・零細事業所への影響はこれからです。署名にご協力ください。

# 月間目標達成・4142人が加入 2019年秋の拡大月間

## 相談でできる組織づくり

## 仕事とくらしの要求を前進

秋の拡大月間では4142人を拡大し、月間拡大率は3・62%に到達、本部月間目標を達成しました。11月当初人員は11万4661人で1月比379人の増です。月間3・5%目標達成支部は27支部(昨年23支部)、年間12%目標達成支部が9支部(昨年10支部)です。全分会目標達成支部は12支部(昨年12支部)となりました。



本部拡大打上式(11月2日)で目標達成を祝う本部役員

秋の拡大月間は、①産業の適正なルールづくりへの協力を広げ、多数派結集で強大な組織建設をすすめ、現場の内外的たかひを広げ、②「総合5カ年計画」の一層の推進を加速させ業界・行政・政策の変革をめざし、仲間の仕事を守り、組織力を引き上げる、③平和と憲法を守り、消費税増税・社会保障改悪阻止、仲間の命とくらしを守る「命の綱」土建国保を守り抜くこと位置づけ、月間目標に結び、年間1%増勢の展望を開くことを基本目標に取り組み、本部目標を達成しました。拡大運動の実践が組織力を強め高める月間として、「新しい仲間の加入を追求する拡大力」、「追及する中で基礎組織の重要性と方針の補完の重要性」、「後継者世代との顔の見え関係づくり」、「相談でできる組織づくり」と、拡大運動による「入づくり」「組織づくり」が明確になっていきます。この点で対象者に長時間にわたって「仕事とくらしの要求」前進に向けた東京土建の魅力を語り、対象者を探し出す仲間の行動力は、相互の奮闘に触発され、意思、運動継承の前進が見られ、また、仲間を想い災害の被害と安否確認についても、活動家の献身的な奮闘と組織力による行動が、被害者だけでなく全都を勇気づけ、減災・防災から街の救助隊の確立と役割が明らかになりました。

わたって「仕事とくらしの要求」前進に向けた東京土建の魅力を語り、対象者を探し出す仲間の行動力は、相互の奮闘に触発され、意思、運動継承の前進が見られ、また、仲間を想い災害の被害と安否確認についても、活動家の献身的な奮闘と組織力による行動が、被害者だけでなく全都を勇気づけ、減災・防災から街の救助隊の確立と役割が明らかになりました。

秋の拡大月間を終了するにあたり、板橋支部では11月2日、板橋区立グリーンホールで139人の仲間を集めて拡大打上式を開催しました。野崎邦治執行委員長は、17年連続全分会目標達成と青年部、イキイキ会、女性の会も達成したことにお礼を述べ、達成が見えない分会もあったが、31日までの奮闘で全分会が達成したと報告しました。来賓を代表して松丸一雄中央執行委員長が、本部目標を達成したことを報告。組織を増やして要求実現に向けて一緒に進んでいきたいとあいさつしました。



発言する小坂賢対部長

発言する小坂賢対部長  
労働者問題で、東京土建が労働相談で、ベトナム人技能実習生の残業代不払いなどの実態をつかんだことを報告した。初日の最後、第35回全国青年技能競技大会上位入賞者表彰があり、金賞の高田慎太郎さん(清瀬久留米)、銀賞の横山剛士さん(大田)、銅賞の柴田輝美さん(村山大和)の皆さんが表彰されました。2日目は10分科会で討議。最終日には、この大会で確認された運動方針をすべて仲間で取り組み、65万人早期回復実現に全力を尽くすとした大会宣言を、全体の拍手で採択し閉会しました。

林賢二郎組織部長の拡大の総括では、「今回も厳しかったが、今後は実増を目指してがんばっていききたい」と決意が語られました。その後、ダルマの目入れで目標達成を祝い、達成した全分会と青年部、イキイキ会、女性の会を表彰。さらに拡大率1位の徳丸分会、拡大率1位の連根分会、実増率1位の新赤塚分会が、秋の拡大3賞として表彰されました。



目標達成を記念して目入れを行なう、右から野崎委員長、山本書記長、林組織部長

### 65万人早期回復へ全力

### 総連が60回大会を熊本で開催

全国建設労働組合総連合は10月30日、11月1日、熊本県熊本市で第60回定期大会を開催しました。53県連・組合から1411人の組合員(東京土建は149人)と来賓42人が参加しました。大会開催にあたり、あいさつに立った吉田三男委員長は、全国の仲間の奮闘で全建総連が62万4113人と3000人近い増勢を勝ち取って大会を迎えたと報告。来年の結成60周年に向け、組織拡大運動への協力を求めました。初日の最後、第35回全国青年技能競技大会上位入賞者表彰があり、金賞の高田慎太郎さん(清瀬久留米)、銀賞の横山剛士さん(大田)、銅賞の柴田輝美さん(村山大和)の皆さんが表彰されました。2日目は10分科会で討議。最終日には、この大会で確認された運動方針をすべて仲間で取り組み、65万人早期回復実現に全力を尽くすとした大会宣言を、全体の拍手で採択し閉会しました。

■NHK東日本大震災プロジエクト「明日へつなげよう」の11月10日放送分で、熊本城の復旧工事が取り上げられていた。この放送を見るきっかけになったのは、熊本市で開催されていた全建総連大会だった。大会の2日目、分科会の終了後、熊本城へ向かうと、天守閣が望める加藤神社の境内で俳優の佐々木蔵之介が天守閣を見上げており、人だかりの中、地元のNHKがカメラを回していた。■「明日へつなげよう」では佐々木蔵之介がナビゲーターをつとめ、地震で壊れていく天守閣を市民が目撃の当たりにしていたことから、市民の復興への希望となるように天守閣から修復することになったと伝えられた。そして奇跡の一本石垣で支えられた櫓の倒壊を防止する緊急工事を指揮した現場所長、天守閣の外壁を正確に再現した大工、崩れた石垣を元通りに積み直す石工が登場し、それぞれが復興への熱い思いを語る。■10月31日未明には沖縄県の首里城が焼失した。再建にあたって、首里城で使われていた赤瓦は材料の粘土の採取が困難、漆喰職人も不足などの問題や、国と県民のどちらが再建の主体になるのかなどの課題を抱えている。しかし私たちの仲間の建設従事者が市民の希望を担って、熊本城と同じように熱意をもって再建していくと信じている。